

## 学生が“社会にいいこと” をするラボ

連携先：株式会社中国銀行、株式会社山陽新聞社



### 学生のアイデアで社会貢献を

急激な社会の構造的変化に即した地域課題解決への大学の知的貢献を目的とし、結果として大学の知見を社会に還元することを目指した。具体的な方法として、学生自身が考える大勢の方々を笑顔にする“社会にいいこと”をクラウドファンディング(以下CF)でお金(資金)を調達して、実現させていった。

まずは、地域の方から課題の持ち込みを受けた「耕作放棄地の課題解決」について取り組んだ。現状把握と整理により、農業は重要視されているが地域とのつながりが希薄である所が課題ではないのか、と考え社会的価値・経済的価値を考えた地域ブランドや地域活性化をキーワードとした支援策やイベント実施案を3案提案した。次に、昨年度のラボでCFを達成した「SDGsでお仕事なりきり大学」事業の実行に取り組んだ。コロナ渦で事業の実施が延期されている中、イオン岡山・万寿小学校からSDGs出前授業の依頼をいただき、万寿小学校でプログラミング体験・科学者体験・エコバックづくりのワークショップを実施することが出来た(イオン岡山でのイベントは感染症拡大状況により中止となった)。活動が制限される中の念願の実施であり、実施内容への高評価と子どもたちの多くの笑顔を得られた。この2つの取り組みのなかで、農家への聞き取り調査で明らかになった捨てられてしまう「規格外フルーツ」の存在と「SDGs」を掛け合わせ、学生たちは次に取り組む課題を「フードロス」に絞った。1次産業、2次産業、3次産業者へヒアリング調査を行い、価値を共創し広める体験の場として「家族でフードロス体験!!お仕事体験教室」を計画。廃棄される野菜からハイブリッドせっけんやインクの作成・規格外フルーツを使った6次産業体験などを出来る親子向け教室の実施を企画した。